

〔共同研究〕

男性の話しことば

——「女性の話しことば」と比較して——

遠 藤 織 枝 片 桐 須美子
桑 原 文 代 小 林 美恵子
韓 先 熙 丸 山 和香子

—はじめに—

昨年行った共同研究「女性の話しことば」に引続き、今回は「男性の話しことば」について調査を行う。女性の調査にあたっては、一般にいわれる女性のことばは丁寧である、敬語が多い、などの通説への疑問から出発した。調査したのは敬語の使用状況、終助詞の用法、名詞の使い方、縮約の実態であるが、これらいずれについても、その程度の差こそあれ、従来の女性らしい話しことばとされたものとは異なり、中性化の傾向を示していることが明らかになった。このとき女性の調査の対照資料とした男性の話しことばは、おもにインタビュアーであった男性アナウンサーのものであるが、インタビュアーとゲストという立場の差が男女差以上にことばのあらわれ方に反映する面もあろうかと考える。そこで今年度は男性をゲストとするインタビュー番組を資料とすることにより、昨年の結果を男性の側から裏付けてみたいと考えたのである。

資料として用いたのは1990年2月～1990年6月に放送・放映されたNHKラジオ「こだわり百科」テレビ朝日「徹子の部屋」の男性に対するインタビュー18編である。実はこの資料の選定については非常に苦勞した。女性の場合と同様に年齢・職業の偏りがないこと、特にかた苦しかったり、くだけすぎでない普通の話しことばであること、15分ぐらいのインタビューで話題の広がりがあること、また同一のインタビュアーによってなされたものでゲストへの話しかけ方、話題の扱いなどに共通性があるもの、と考えたわけだが、このような条件を満たすインタビュー番組自体がなかなか存在せず、結局ラジオとTVをあわせた2番組でインタビュアーも複数ということになった。また年代的に30代の登場するインタビューが少なく、この部分でもやや偏りが見られる。あらゆる年代で活躍する女性が目立ち、また活躍が評価にストレートにつながる女性の世界に比して、まだ

まだ年功序列があったり、また社会に出ている層の厚さもあるのだろうが、若い男性が一定の分野でしか評価されにくい男性社会の生きにくさ、というようなことが研究に携った者の中で話題になることもあった。出場したゲストの一覧表は後に掲げる。ケース名にKを冠したものが「こだわり百科」Tを冠したものが「徹子の部屋」である。

資料の扱いについては女性の調査の場合と同様である。

まず該当番組の録音を文字化する。文字化は音声の微妙な変化、言いよどみなどは顧慮せず、文としてわかるような記録にした。一例をあげる。

インタビュアー（以下「I」とする。）

声がもともと戻ってほんとによかったですね。／

ゲスト（以下「G」）そうですねえ。／

俳優には声が一番の商売道具ですから、それが失われるんじゃないかと思ったときはとても怖いってうか、不安でした。／

I あれはもともとなんていう病気だったんですか。／

G えー、カゴ腫って、まあ、あの、腫瘍ができたんですけれども。／

I 肺に？／

G はい。／

文の数を問題にする場合の、文の分け方としては『話しことばの文型I』（国立国語研究所・19）の、文とは「陳述を負う述語または独立語一つをもち、社会習慣としてひとまとまりの意味をあらわして言い切ることば」「文は、話し手が自己の感情や判断叙述や命令、質問、応答などを表現するひとまとまりのことばである」の考え方と同書の分け方にならい、上記で／を入れたように切ることにした。音の切れ目があっても内容に切れ目がなく続いている場合は文は切りわけない。したがって次のような文は、1文と考える。

（例1） だから、もう、ちょっとね、あれ、4月、3月の公演の時に終りの日で、『テンペスト』っていう芝居やってたんですね。（T9）

倒置文も述部で切らない。

（例2） もう、5月5日には入りました。北海道に、（K1）

完全に終止の形になっていなくても、次の表現と内容が異なる場合は切って2文

とする。

(例3) 隣がたしかね、エ、アノートミサブローってのがきたってよ。／あ、女形の、／あいつねエ、富三郎、若山富三郎の弟子なんだよ、あいつって言った人がいてね／(T4)

インタビュアーとゲストは交互に、ひとつないしいくつかの文からなるひとまとまりの質問やそれに対する答えをかわす。それらのひとまとまりを「談話」とした。談話の区切りは通常話者が交代するところになるが、聞き手が話し手のことばと平行してあいづちを入れ、話し手はそれをほとんど意識せず話を続けている場合も多い。このような場合はあいづちを文として数えないで話者のひと続きの談話とした。

(例4)

G 何しろ、これは出たのが昭和12年だね。

I あらら。

G もう50年以上前。

I ええ。

G ですからねえ、えー、その後戦後、ことに戦後、どんどん本が出ておりますから。

I はい。

G あの昭和12年では、もう今現在ではあまり役に立たない。(K8)

この例はGの1談話となるわけである。

こうした資料18人分について、次のような観点から分析した。

- ① 談話中の敬語使用の実態。(述語部分)
- ② ゲストの用いる名詞における待遇表現。
- ③ 応答詞、終助詞はどのように用いられているか。
- ④ ゲストの用いる縮約表現。それは丁寧度にどう反映しているか。
- ⑤ 談話の文末の型や接続語句の使い方に男女差は見られるのか。

以上のうち①～④は昨年に引続いての調査であるが、⑤については昨年の調査で用いた女性資料を対照しながら新たに考察することとした。執筆については①片桐須美子 ②小林美恵子 ③韓 先熙 ④丸山和香子 ⑤遠藤織枝とそれぞれ分担し、小林が整理統一を行った。なお資料収集、録音整理等については昨年に引続

き、おもに桑原文代が担当した。

(資料)

(ゲ ス ト 一 覧 表)

ケース	氏 名	(出場時の年代)	職 業
K 1	今 井 一 雄	30代	徒歩旅行家・元教師
K 2	南 伸 坊	40代	イラストライター
K 3	赤瀬川 原平	50代	画家・作家
K 4	大 村 虔 一	〃	建 築 家
K 5	原 田 碩 三	〃	大 学 教 授
K 6	村 上 利三郎	60代	卒業式の歌発掘・元サラリーマン
K 7	荒 木 八洲雄	〃	安来節の普及
K 8	辻 恭 兵	80代	著述家(映画書誌)
T 1	ヨ シ キ	20代	ロックバンドリーダー
T 2	河 合 俊 一	〃	元全日本バレーボール選手
T 3	堤 大 二郎	〃	T V タ レ ン ト
T 4	梅 沢 富美男	40代	大衆演劇役者
T 5	千 田 正 穂	〃	アナウンサー
T 6	角 川 春 樹	〃	出版・映画製作・俳人
T 7	斉 藤 茂 男	60代	ジャーナリスト・著述家
T 8	川 本 喜八郎	〃	人形アニメ作家
T 9	平 幹二郎	〃	俳 優
T 10	大 滝 秀 治	〃	俳 優